

令和4年度 奈良県立大和広陵高等学校 学校評価総括表

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	スローガン <スポーツ（部活動）をとおしての人づくり> ・教育活動を通して、一人一人の進路実現、自己実現を目指します ・体育活動、スポーツ活動を通して、健やかな身体、健全な精神を育てます ・地域での活動や社会参加活動を通して、地域と融合し地域の活性化に寄与する人材を育てます
年度重点目標	(1) 学習意欲を喚起し、確かな学力の育成を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 (2) ルールやマナーを守るための大切さを理解させ、社会で自立するための基本的な力を身に付けさせる。 (3) 清掃活動とおして協調性を育成すると共に、みんなで使う場所を大切にすると共に、責任感を養う。 (4) 部活動やボランティア活動等に積極的に参加させることを通して、豊かたたくましく身の育成を図る。 (5) 学校評価の推進を図る。 (6) 情報の収集及び広報（情報発信）の強化を図る。 (7) 「学校運営協議会（コミュニティースクール）」を充実させ、地域との連携・協働を図り、地域と共ある学校づくりを進める。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針（スクール・ポリシー）	<p>入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ・学業をはじめ、学校生活に前向きに努力できる生徒 ・何事においても、仲間と協調して取り組める生徒 ・中学校において、学級活動、生徒会活動、部活動等に積極的に参加し、高校入学後も継続して活動する意思をもっている生徒 ・体育活動、スポーツ活動に興味、関心のある生徒</p> <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>本校では、確かな学力・豊かな人間性・健やかな身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養うことを教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。 ・生徒が主体的に学び、確かな基礎学力を培う授業の実践 ・キャリア形成において、生涯を見通したコミュニケーション、表現力、問題解決力の育成を目指した教育活動の実践 ・地域での活動や社会参加活動を通して、他者尊重の姿勢を育み、自己肯定感・有用感の醸成を図る教育活動の実践 ・将来、地域や社会に貢献できる人物の育成を目指し、スポーツ・文化的活動を通して探求的な活動や地域への支援・交流活動を行う</p> <p>育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）</p> <p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。 ・キャリア形成を目指した学習を通して、自ら考え、学ぶ力と探究する心 ・心身を鍛え、進路を拓く確かな学力を身に付け、将来地域に貢献していく志 ・スポーツ・文化的活動を通して培う高い人間力</p>
-----------------	--

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各々でこの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価	改善策
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはぐくむ	・体力の向上と運動習慣の定着	・生徒アンケートにおいて、「スポーツテスト、日々の体育授業のトレーニングを通して、前年に比べ体力の向上がみられた」回答80%以上	・生徒アンケートにおいて、「スポーツテスト、日々の体育授業のトレーニングを通して、前年に比べ体力の向上がみられた」回答60%以上	・生徒アンケートにおいて、「スポーツテスト、日々の体育授業のトレーニングを通して、前年に比べ体力の向上がみられた」と回答した生徒は60%であった。	・今年度の目標は達成できた。次年度の目標に向け取り組んでいく。	・前年度に比べて体力の向上があったと答える生徒が70%は望ましい。 ・目標が達成できて良かったと思う。来年度も継続できることを期待します。 ・体力や運動は生活の中で意識すること大切。意識させる取組もしながら、自分の生活の一部として欲しい。 ・公開授業の中で体育のルールボールを見せてもらったのが活動的で良かった。 日頃の練習が体力向上に繋がっていると思う。	・次年度に向けても体力・トレーニングに時間をかけて丁寧な指導ができるように工夫したい。また、毎時間のルマをこなすだけでなく、年度を重ねる毎に、前年の記録を上回るよう生徒の目標に対する意識改革していきたい。
	・部活動の活性化	・新入生、部活動加入率90%以上 ・部活動集会の実施、運動部月に1回・文化部学期に1回、合同で学期に1回の開催 ・地域の小・中学校の部活動やスポーツ団体等との交流	・新入生、部活動加入率50%以上 ・部活動集会の実施、運動部月に1回・文化部学期に1回、合同で学期に1回の開催 ・地域の小・中学校の部活動やスポーツ団体等との交流	・5月には、新入生の部活動加入率が70%であったが、体力的についていけない、進路変更等により3学期には60%となった。 ・部活動集会の実施は運動部月に1回・文化部学期に1回、合同で学期に1回の開催。 ・地域の小・中学校の部活動やスポーツ団体等との交流はコロナ禍により見送られた。	・部活動加入率、集会の実施の目標は達成できた。 スポーツ交流はコロナ禍の影響もあり見送られたが、可能な範囲で進めていきたい。	・部活動加入率は年々向上しているが、スポーツ（部活動）をとおしての人づくりをスローガンに掲げている以上、卒業時にはさらに高めて欲しい。 ・コロナの状況もあって無理のないよう進めていく欲しい。 ・部活動の更なる活性化に期待するとともに、教員の働き方改革も同時に進めていきたい。	・より多くの入部希望者ができるように新入生への部活動紹介や体験入部を工夫する。特に普通科生徒の運動部への加入、3年部活動できるような指導体制の検討も必要である。また、部活の活性化に向け入学生を増やす取組を進めなければならない。 ・学校の将来（3年・5年・10年先）を考えたプロジェクトチームを作り、全ての教員が共通の価値観を持って取り組むことが必要である。
	・基本的生活習慣の確立	・欠席、遅刻、早退数の前年度比10%減少 ・生徒アンケートにおいて、「適切な言葉遣いで、あいさつ・敬語の使用ができる」回答85%以上 ・清掃活動の充実、運動部と文化部・各委員会等が定期的に合同清掃を実施	・欠席、遅刻、早退数の前年度比10%減少 ・生徒アンケートにおいて、「適切な言葉遣いで、あいさつ・敬語の使用ができる」回答85%以上 ・清掃活動の充実、運動部と文化部・各委員会等が定期的に合同清掃を実施	・欠席、遅刻、早退数のうち遅刻数が前年に比べ9%増加した。コロナ禍の影響が考えられる。 ・生徒アンケートにおいて、「適切な言葉遣いで、あいさつ・敬語の使用ができる」と回答した生徒は90%であった。 ・言葉遣い、合同清掃活動の目標は達成できた。	・欠席、遅刻、早退数は減少に向けた取組を実施したい。 ・言葉遣い、合同清掃活動の目標は達成できた。	・欠席、遅刻、早退数の減少を期待する。ただし、遅刻の増加は要注意である。 ・学ぶ環境づくりはまず清潔感だと思う。廊下、階段等をもっと清掃は行き届いて欲しいと思う。 ・公開授業の様子を見て学校は落ちている。あいさつも出来ていると思う。 ・卒業までに人数が増えるべし減らさないように期待します。 ・卒業後の増加はコロナの影響もあると思いますが、アターコロナを引きずらないような対策をする必要である。 ・地域の清掃を定期的に行っているのは素晴らしいこと。今後も続けて欲しい。	・遅刻生徒に対する指導方法を検討し、より効果的な指導を行うこと。家庭への協力を強化するとともに、個別に面談等を実施することで意識を高める指導を行う。 ・日常あちから場面でも言葉遣いに関する指導を徹底し、すべての教員による強い取組を要する。また人権教育部と連携し、H R等において「正しい言葉遣い」「やさしい言葉遣い」を対面コミュニケーションだけでなく、SNSの使用に絡めて展開していく。清掃活動の徹底については更に進めていきたい。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはぐくむ	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・観点別評価の充実	・生徒アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んだ」回答85%以上 ・生徒アンケートにおいて、「学習の成果がわかりやすく評価され、学習を進めるために役立っている」回答85%以上	・生徒アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んだ」回答85%以上 ・生徒アンケートにおいて、「学習の成果がわかりやすく評価され、学習を進めるために役立っている」回答70%以上	・生徒アンケートにおいて、「授業に意欲的に取り組んだ」と回答した生徒が90%であった。 ・生徒アンケートにおいて、「学習の成果がわかりやすく評価され、学習を進めるために役立っている」回答は70%であった。	・目標達成できた。更に生徒の意欲向上に向け取り組むたい。	・先生方の指導で更なる学力伸張に取り組んで欲しい。 ・学校見学で生徒が落ちついて授業を受けている状況を見ました。 ・生徒たちが意欲的に取り組んでいる状況はほほほしい。今後も維持することを期待します。	・家庭での学習習慣がないままに入学し、その改善がなされていない生徒も多く、学習習慣の定着が一層求められる。欠点総数、欠点保持者数は年々減少しているが、学習に対する目的意識や成績に対する危機感の希薄な生徒、学習習慣の改善を自ら促すことの難しい生徒、改善意識はあってもなかなか実行できない生徒に対し、どのように指導するか、今後も継続して効果的な方法を模索しながら各教科・科目等で実行していく必要がある。また、次年度も一人一台端末を活用しながら、より充実した観点別評価を実施することにより、生徒が自ら授業改善や家庭学習に取り組む意欲・姿勢の向上に繋がるよう、指導の工夫を促したい。
	・魅力と活力のある学校づくり	・野外活動、水上、スキー（3級検定合格10%以上）等のスポーツ実習の充実についての生徒満足度80%以上 ・体育大会、球技大会等行事の充実についての生徒満足度80%以上	・野外活動、水上、スキー（3級検定合格10%以上）等のスポーツ実習の充実についての生徒満足度70%以上 ・体育大会、球技大会等行事の充実についての生徒満足度60%以上	・野外活動、水上、スキー（3級検定合格10%以上）等のスポーツ実習の充実についての生徒満足度95%であった。 ・体育大会、球技大会等行事の充実についての生徒満足度80%であった。	・スキー検定合格は悪天候の影響もあり目標達成できなかったが、各行事の充実満足度はすべて達成できた。	・生徒の満足度は十分である。次年度の合格数増に期待します。 ・学校行事での体験は生徒の成長の上で必要だと思う。 ・生徒の満足度が高いのが良かった。	・コロナウイルス感染症の影響で数年間は通常の実施が難しい状況が続いていた。今後も感染状況に応じて臨機応変に対応していきたいよう実施形態等を模索していく。実習場所を変更して今回で3回目の実習となり、内容や要領は定着してきたが、例年台風の影響を受けやすい時期である。宿泊場所から実習地点までの移動方法等に課題があり、今後検討を重ねていく必要がある。
	・オンライン教育の推進	・ICTを活用した指導の充実、教員アンケートにおいて、授業でのデバイス使用80%以上 ・教員の情報研修を年間2回以上実施し、指導力の向上を図る	・ICTを活用した指導の充実、教員アンケートにおいて、授業でのデバイス使用80%以上 ・教員の情報研修を年間2回以上実施し、指導力の向上を図る	・ICTを活用した指導については、授業でのデバイス使用が70%で昨年度より増えた。 ・教員の情報研修については、全教員対象の研修は行わなかったが、教員個人で行い、指導力の向上を図った。	・概ね達成できた。担当学年等使用状況に個人差が見られる。次年度も引き続き個別での対応も含め研修を行い指導力向上に努めたい。	・今後に向けICTの更なる充実を望む。研修は全体が無理でも教科や分掌でやって欲しいです。 ・全てオンラインであることはなく、内容より対応状況が変わると思う。 ・1人1台端末が進み、どのように活用していくかが課題だと思う。一人ひとりがライブ・セルクエブを考えた、一定のルールで使うことが必要。先生方も生徒と関わりをもたせる工夫や研究をして欲しい。 ・ICT支援員を活用するより更なる活用に取り組んでいきたい。 ・オンライン教育は大切。全ての先生方がICTデバイスを使えるよう研修が必要である。	・職員への研修も随時行いながら、授業への導入が行えた。ただ本年度はBYODが第1学年となっているため、次年度以降も継続的に全教員が一定のレベルで使用できるようにしていく必要がある。教科内での差をなくすことや、引き続き研修を継続して行うことが必要である。
・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実	・キャリアパスポートを通して、目的意識を明確にし、自己実現に向けた姿勢を育てる（4月実施の進路希望調査における「未定」回答者の50%減）	・キャリアパスポートを通して、目的意識を明確にし、自己実現に向けた姿勢を育てる（4月実施の進路希望調査における「未定」回答者の25%減）	・キャリアパスポートを通して、目的意識を明確にし、自己実現に向けた姿勢を育てる（4月実施の進路希望調査における「未定」回答者の25%減）	・キャリアパスポートを通して、目的意識を明確にし、自己実現に向けた姿勢を育てる（4月実施の進路希望調査における「未定」回答者の25%減）	・目標達成できた。更に高い目標に向け進めたい。	・未定者の減少に向けての取組を期待する。 ・個々への目標を積極的に進めてもらいたい。 ・自分の記録としてまた、自分を見つめる機会にも必要である。	・3年次だけでなく、1・2年次からの積み重ねが重要。3年間を見通して総合的な探求の時間等を有効活用していくなど、内容や実施方法を吟味することが必要である。

3. 働く意欲と働力をはくむ	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般企業、後所、スポーツ施設等との連携を強化し、生徒の職業意識を高める取組を充実する ・インターンシップなど就業体験への参加生徒を現状比200%に増大させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般企業、後所、スポーツ施設等との連携を強化し、生徒の職業意識を高める取組を充実する ・インターンシップなど就業体験への参加生徒を現状比150%に増大させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般企業、後所、スポーツ施設等との連携を強化し、生徒の職業意識を高めることができた。 ・インターンシップなど就業体験への参加生徒は前年度比較130%となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広陵町と連携機会が増えた。次年度、企業、施設へと連携拡大を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己実現に向けて積極的な取組をお願いしたい。 ・広陵町とも連携の機会が増えたことは評価されます。 ・今年度のようにかぐや姫祭り、スポーツスタ、マラソン大会での連携を継続して欲しい。 ・インターンシップの拡大を推進して欲しい。 ・地元との連携を増やすこと大和広陵高校の存在感が更に高まると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについて、参加希望者が増えてもなかなか参加できない現状があった。県立教育研究所が開催するインターンシップ/セミナーなどの周知を徹底する。また、学校独自の実施もできるよう検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業との連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会への地元企業の参加増加を促進 ・1年フィールドワークを通して地元企業とのコラボ企画を目指す ・参加生徒の満足度80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会への地元企業の参加増加を促進 ・1年フィールドワークでの地元企業とのコラボ企画を目指す ・参加生徒の満足度75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会への地元企業の参加数に変わりはなかった。 ・フィールドワークは実施できなかったが、地元企業や産業界を調べ、その成果を地域のみなちの前で発表した。参加生徒の満足度は90%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習に変更の為、コラボ企画の目標は達成できなかったが、そのきっかけづくりができ満足度は達成できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一気に目標達成は厳しいと思うので、今後の働きかけに期待します。 ・社会人として活躍する年齢が近づいている生徒が地元企業へ参加し体験するコラボ企画には興味深いです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携校をはじめとする学校外の教育力を活用し、キャリア教育のさらなる推進を図る。地元企業との関係づくり、共同事業の取組に協力を求めていく。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域理解を深める取組の推進 ・社会教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による活動基盤の構築 ・奈良TIMEのフィールドワークなどの活動を通して、地域理解を深める。生徒アンケートにおいて、目標達成に関する満足度80%以上 ・地域の関係機関との連携を強化し、地域のイベント、施設・企業との連携事業を立ち上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員が主導して、年間2回以上を開催し、地域との連携を推進する ・奈良TIMEのフィールドワークなどの活動を通して、地域理解を深める。生徒アンケートにおいて、目標達成に関する満足度75%以上 ・地域の関係機関との連携を強化し、地域のイベント、施設・企業との連携事業を立ち上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の委員が集まり年間3回開催し、地域との連携を推進した。委員主導の運営の基礎ができました。 ・奈良TIMEの活動を通して、地域理解を深めることができた。生徒満足度は90%であった。 ・地域の関係機関と連携し、地域のイベントに参加協力することができた。しかし、施設・企業との連携事業を立ち上げることは達成できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数は達成できた。組織の運営形態の確立に向け取り組んで行く。 ・取り組み方に変更があったが、成果につながり満足度は達成できた。 ・イベント参加等により地域との連携が復活、次年度に向け進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の役割について再確認の必要がある。 ・総合的な探究の時間での1年生の広陵町PR発表は大変素晴らしい。このような取組を続けて欲しい。 ・学校の特徴づくりに向け次年度からの更なる取組に期待する。地域との協働で生徒に多くの体験をさせてください。特に参画型が大切だと思います。 ・コロナ禍で一気には難しいが前向きに取り組む事を期待します。 ・広陵町生涯学習文化財課と連携して第1回「生涯学習セミナー」を開催できた。次年度も良い、生徒と地域の繋がりを進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会が1つの組織として、学校と地域をつなぎ、生徒を育てていく役割であることを共通理解し、具体案を策定、協働し活動に繋げていく。 ・従来の奈良TIMEフィールドワークの活動は実施できなかったが、地元広陵町をPRすることを目的に調べ学習を行い発表会を実施。一連の活動を通して、地域理解を深めることができた。目標達成の満足度も高く、生徒がさらに前向きに取り組む内容を、計画し実施していく。 ・広陵町生涯学習課との連携を果たすことができた。ここから他の地域の関連機関や地元企業への繋がりと広めていきたい。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の推進 ・いじめ防止方針に基づく取組の推進 ・特別支援教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の向上と人間関係づくりの充実 ・生徒アンケートにおいて、「人権HR活動を中心とした校内活動や地域協働活動を通して、人権意識が向上した」回答80%以上 ・いじめ防止基本方針の点検・見直しと、いじめアンケートの年間2回以上の実施 ・人権HR活動を中心とした豊かな情操の育成 ・カウンセリング、特別支援（通級）指導におけるスクリーニング会議の実施 ・ストレスチェックアンケートを年2回実施 ・カウンセリングだよりの発行、生徒対象年間10回、保護者対象年間1回 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の向上と人間関係づくりの充実 ・生徒アンケートにおいて、「人権HR活動を中心とした校内活動や地域協働活動を通して、人権意識が向上した」回答80%以上 ・いじめ防止基本方針の点検・見直しと、いじめアンケートの年間2回以上の実施 ・人権HR活動を中心とした豊かな情操の育成 ・カウンセリング、特別支援（通級）指導におけるスクリーニング会議の実施 ・ストレスチェックアンケートを年2回実施 ・カウンセリングだよりの発行、生徒対象年間10回、保護者対象年間1回を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識の向上と人間関係づくりの充実に向け取り組むことができた。 ・生徒アンケートにおいて、「人権HR活動を中心とした校内活動や地域協働活動を通して、人権意識が向上した」回答80%であった。 ・いじめ防止基本方針の点検・見直しと、いじめアンケートを年間2回実施した。 ・人権HR活動を中心とした豊かな情操の育成に取り組んだ。特に盲導犬に関する活動は、生徒の障害者への理解を深めた。 ・目標達成できた。他に分野においても理解が深まるよう進めたい。 ・目標達成できた。更にきめ細かい対応に向け取り組むたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き進めて欲しい。 ・人権意識を高めるためには、いろいろな立場、年齢、仕事等人との出会いが大切だと思つて、学校が進めている地域との繋がりは必要不可欠だと思つた。 ・いじめ、障害者問題はコロナと取り組むことが理解に繋がる。 ・盲導犬に関する活動は継続してください。具体的に体験することは理解を深めるには効果的である。 ・学校として人権HR活動の時間を設定し取組を進めることは素晴らしい。日々の取組の継続が大切である。 ・いじめ、障害者問題はコロナと取り組むことが理解に繋がる。 ・きめ細かい指導で引き続き取り組んで欲しい。 ・配慮の必要な生徒を見逃さず見守り続ける姿勢、必要性が年々高まっている。本校の生徒の心を知る取組を続けて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍によるリモート学習などの影響で生徒への意識付けが難しいと思われたが、テーマに沿ってしっかりと取り組むことができ、生徒の意識を高めることができた。さらにHRの内容や教材研究に努めていきたい。 ・いじめアンケート実施後の対応について、生徒指導部、人権教育部、教育相談室と連携を取り、協議、共通理解して対応していく。生徒対象の講演会等について、体験を伴い生徒の心に残る内容のもの等、題材をよく検討し、継続して取り組んでいきたい。 ・カウンセリング、特別支援教育活動において、よりきめ細かい指導をおこなえるように職員研修や情報共有を充実させ継続した取組をしていきたい。 	

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

今年度もコロナ禍の影響を受けての取組、新学習指導要領が始まり、評価計画の改善がなされ観点別学習状況の評価へと評価の多様化・多面化などが求められてきた。また、1年生では、BYODによる1人1台端末、電子黒板を活用した授業が9月から始まった。それらの新しい取組は学校教育活動にとって大きな変化であり、それらの対応に苦慮する場面も多かった。そんな中においても、今年度の学校教育目標に対する取組における達成度は「概ね達成することができた」と評価できる。職員それぞれが役割を担い、粘り強く取り組めた為である。次年度に向けては、目標とする教育活動に対し担当分享や担当係を更に明確にするとともに、連携を高めたいことで、よりスピーティブかつ効率的に進めていけるようにしたい。

・学校満足度（私は子どもを大和広陵高校に入学させて良かった）の質問に対し、「そう思う」、「どちらかというそう思う」と回答した保護者は91.2%であった。また、（私は、大和広陵高校に入学して良かったと思っている）の質問に対し、「そう思う」、「どちらかというそう思う」と回答した生徒は78%であった。